リハビリテーション学部　カリキュラムマップ

ディプロマ・ポリシー	【豊かな人間性】	①幅広い教養を身につける
		②価値観の多様性を理解する
		③他者の感情を察し、理解することができる
	【国語力】	④思考力・対話力・表現力を養うための基本であり、文化の基盤である国語力を身につける
	理学療法を学ぶ学生としての態度】	⑤自身の行動の省察に基づいて、自身を成長させ続けることができる
		⑥他者と連携・協働することができ、強い責任感を持って自身の役割を担うことができる
		⑦理学療法士の社会的責任を理解して行動できる
		⑧協働意思決定の重要性を理解し、対象者本位の理学療法が提案できる
	【専門知識・技術】	⑨専門職として必要とされる観る力、聴く力、伝える力を身につける
		⑩基礎医学領域の知識を身につける
		⑪理学療法専門領域の知識と技術を身につける
		⑫習得した知識と技術を用いて、理学療法評価および治療を実践できる
	問題解決能力・科学的探究心】	⑬最新の情報を収集、理解できる能力を身につける
		⑭情報を整理して把握し、客観的な判断に基づき原因を考えることができる
		⑮論理的思考に基づき解決策を立案することができる
		⑯問題の解決に向け、積極的に行動することができる
		⑰科学的根拠の構築の必要性を理解し、探求心をもって理学療法の検証ができる

（◎＝学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○＝学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△＝学習成果を上げるために履修することが求められる科目）
ALはアクティブラーニング。ALが11回以上で◎、6～10回で○、1～5回で△、0回は空白。

分野		新科目名（27生カリ）	ナンバリング	科目概要(*1)	カリキュラム・マップ																	AL(*2)
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	
	人体の構造と機構及び心身の機能	解剖学A	RL1101	体の位置や向き、方向を表す基本的な専門用語を使うことができる。細胞と組織を系統的に理解し、受精卵から個体ができるまでの過程の概略を学び、骨の構造、骨の連結様式、関節の構造と動きと分類、骨格を構成するすべての骨について形態的特徴と人体における位置などを学習する。	○			○			○		○	◎	◎	◎	○	○	○		○	
		解剖学B	RL1102	筋肉の構造と収縮のしくみ、個々の筋肉の起始、停止、作用、支配神経を理解し、体の様々な動きとそのときに働く筋肉の作用を説明できる。	○			○			○		○	◎	◎	◎	○	○	○		○	
		解剖学A実習	RL1103	循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌器系などの内臓諸器官の構造とその働きを理解し、説明できる。	○			○			○		○	◎	◎	◎	○	○	○		○	
		解剖学B実習	RL1104	感覚器、中枢神経系、末梢神経系の構造と働きを学習する。運動器、内臓諸器官、感覚器の知識を基礎として、全身の諸器官の働きと神経系の役割を関連させて理解する。	○			○			○		○	◎	◎	◎	○	○	○		○	
		生理学A	RL1105	ヒトの身体の正常構造とその機能を学び、生きている仕組みについて説明できる。植物性機能である内分泌系、循環系、呼吸器系、消化器系、生殖器系、免疫系を理解し、細胞の働きを保証する機構である体液と体温の調節における生体内恒常性維持について説明できる。	○									◎	◎	○	○	◎	○	○	○	
		生理学B	RL1106	ヒトの身体の正常構造とその機能を学び、生きている仕組みについて説明できる。動物性機能である神経系、感覚系、筋・骨格系について理解し、感覚、反射、大脳新皮質、運動について説明できる。	○									◎	◎	○	○	◎	○	○	○	
		生化学	RL1107	普遍的な生命現象の機構を分子レベルで理解することを目的とするが，生体成分（糖質・脂質・蛋白質・核酸）の基本構造を知り，その機能やその代謝および調節機構を理解することを通して，生体を理解する。	◎									◎	◎	○	○	○	○	○	○	
		運動生理学	RL2101	基礎医学分野の科目（解剖学，生理学，運動学）で学んだ知識を統合し，理学療法士として活かせる知識とする。そして、運動時に身体の生理的機能はどのように反応するか，呼吸・循環系を中心とする生理学的機能と運動との関係について説明できる。	○								○	◎	◎	○	○	◎	○	○	○	
		生理学実習	RL2102	生理学の講義内容と実際に行った実験結果とを照応させ、生理学の知識をより深く学習する。実習で得られた結果から生体の調節機能について説明できる。	○	△	△			○			△	◎	○	△	○	◎	○	○	○	◎
		病理学概論	RL2103	様々な病気に普遍的にみられる原理，しくみの基本を学び，病気の原因とそれによって起こる体の反応，病気の経過や転帰を理解する。	○			○			○			◎	◎	△	○	○	△		○	
		内科学	RL2104	リハビリテーションを担当する専門職をめざし，主な内科疾患の病因，病態生理，症候，診断，治療などリハビリテーションを施行するために必要な基礎知識を学習する。	○						○			◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	
		整形外科学	RL2105	リハビリテーションを担当する専門職をめざし，運動器系の正常構造と機能を理解し，主な運動器疾患の病因，病態生理，症候，診断と治療を学習する。	○						○	○	○	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	
		臨床神経学	RL2106	リハビリテーションを担当する専門職をめざし，中枢・末梢神経，筋肉疾患の病因，病態生理，症候，治療などリハビリテーションを施行するために必要な基礎知識を学ぶ。	○						○			◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	
		精神医学	RL2107	精神医学で用いられる精神医学用語，各精神障害の概要（病気の成り立ちや現れてくる症状，経過など）を理解し，対象者の心理社会的側面も含めた生活の全体像を捉えることができる。また，精神科治療の実際と，精神科臨床の現状の課題について理解する。	◎	○	○			○			○	◎	◎	○	○	○	○	○	○	

リハビリテーション学部　カリキュラムマップ

ディプロマ・ポリシー	【豊かな人間性】	①幅広い教養を身につける
		②価値観の多様性を理解する
		③他者の感情を察し、理解することができる
	【国語力】	④思考力・対話力・表現力を養うための基本であり、文化の基盤である国語力を身につける
	理学療法を学ぶ学生としての態度】	⑤自身の行動の省察に基づいて、自身を成長させ続けることができる
		⑥他者と連携・協働することができ、強い責任感を持って自身の役割を担うことができる
		⑦理学療法士の社会的責任を理解して行動できる
		⑧協働意思決定の重要性を理解し、対象者本位の理学療法が提案できる
	【専門知識・技術】	⑨専門職として必要とされる観る力、聴く力、伝える力を身につける
		⑩基礎医学領域の知識を身につける
		⑪理学療法専門領域の知識と技術を身につける
		⑫習得した知識と技術を用いて、理学療法評価および治療を実践できる
	問題解決能力・科学的探究心】	⑬最新の情報を収集、理解できる能力を身につける
		⑭情報を整理して把握し、客観的な判断に基づき原因を考えることができる
		⑮論理的思考に基づき解決策を立案することができる
		⑯問題の解決に向け、積極的に行動することができる
		⑰科学的根拠の構築の必要性を理解し、探求心をもって理学療法の検証ができる

（◎＝学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○＝学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△＝学習成果を上げるために履修することが求められる科目）
ALはアクティブラーニング。ALが11回以上で◎、6～10回で○、1～5回で△、0回は空白。

分野		新科目名（27生カリ）	ナンバリング	科目概要(*1)	カリキュラム・マップ ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	AL (*2)
専門基礎科目	疾病及び障害の成り立ちと医学的診断と治療	小児科学	RL2108	小児科領域の特殊性，具体的には子ども特有な疾患の存在と子ども特有の症状および治療方針があることを理解する。将来，医療現場での小児疾患患者との接する際の基礎的知識を習得することを目標とする。	○									◎	◎	○	○	○	○	○	○	
		リハビリテーション医学	RL2109	リハビリテーションを担当する専門職をめざし，主なリハビリテーション対象疾患の病因，病態生理，症候，診断･治療などリハビリテーションを施行するために必要な基礎知識を学ぶ。	○						○	○	○	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	
		画像評価学	RL2110	リハビリテーションを担当する専門職をめざし，医療現場で他職種とのコミュニケーションがスムーズに行えるように，病院勤務で必要な画像診断の基礎知識を学習する。	○						○	○	○	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	
		臨床薬学	RL3101	将来、理学療法士として医療現場で薬物に接する機会は極めて高い。薬 物がどのように作用するのか（薬理作用）を学び、薬物の正しい取り扱いを修得する。	○									◎	◎	○	○	○	○	○	○	
		救命・救急医学	RL3102	医療制度，救急医療体制を理解する。また主な救急疾患について学び，予防，対処方法を習得することを獲得目標とする。さらに心肺蘇生法を理解することによって，緊急時の対応やその解決方法を，実習を通じて学ぶ。非日常的な災害や特殊疾患についても講義を通じて学ぶ。	○					○				◎	◎	○	○	○	○	○	○	
		臨床検査学	RL3301	臨床検査の原理を知り，検体採取法・取り扱いについて理解する。臨床検査の項目，分析方法を学び，疾患・病態との関わり，検査データの評価について理解する。	○						○			◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	
		公衆衛生学	RL3302	国民全体に関わる幅広い健康問題を理解し，現状と課題を説明できる。 環境と健康の関わりについて理解し，幅広い視野で健康問題を考え，よりよい暮らし方を説明できる。 病気の予防と国民の健康保持のための社会制度，行政の活動，医療の関わりなどを説明できる。 人間の健康づくり，健康で安心な社会の実現などの課題に対応するため，医療専門家の活動のあり方と実践活動が果たす役割を説明できる。	○						○			◎	◎	△	○	○	○		○	
		予防医学	RL3303	将来，医療に携わる立場となった時に必要とされる，生活習慣から起こりうる疾病の予防に関する理解を深め，予防医学の基本的な知識を習得することを目標とする。また、加齢に伴う生体の構造・機能変化，主な老年病の病因，病態生理，症候，診断，治療などリハビリテーションを施行するために必要な基礎知識を学習する。	○						○			◎	◎		◎	◎	◎		◎	
	保健・医療・福祉とリハビリテー	地域包括マネジメント論	RL2111	医学モデルから生活モデルへの転換を含めて、理学療法士は医療機関 内に留まることなく、実生活の場で対象者支援を行うために必要な基本的 知識を修得する。また、地域包括ケアシステムが展開 されている現在、理 学療法の領域の拡がりを見据えて、介護予防、健康増進、さらには災害 時 支援・国際支援と視野を広げた医療機関以外での多くの活動につい ても理解する。	○				○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	○	○	○	
		実践セミナー	RL2301	臨床施設に出向き、指導者の監督・助言のもと、実際の症例に対して基本的な理学療法評価の一部を実践する。また、少人数グループで評価結果を共有し、ディスカッションしながら対象の問題点を抽出するまでの統合・解釈の過程を経験する。	△	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	△	△	◎	◎	◎	◎
		チーム医療論	RL3304	理学療法士および作業療法士だけでなく、リハビリテーション関連職種に 関する資格法との関連性を学ぶ。また、リハビリテーションチーム医療・他 職種連携を理解する。		△	△	△	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○						

リハビリテーション学部　カリキュラムマップ

ディプロマ・ポリシー	【豊かな人間性】	①幅広い教養を身につける
		②価値観の多様性を理解する
		③他者の感情を察し、理解することができる
	【国語力】	④思考力・対話力・表現力を養うための基本であり、文化の基盤である国語力を身につける
	理学療法を学ぶ学生としての態度】	⑤自身の行動の省察に基づいて、自身を成長させ続けることができる
		⑥他者と連携・協働することができ、強い責任感を持って自身の役割を担うことができる
		⑦理学療法士の社会的責任を理解して行動できる
		⑧協働意思決定の重要性を理解し、対象者本位の理学療法が提案できる
	【専門知識・技術】	⑨専門職として必要とされる観る力、聴く力、伝える力を身につける
		⑩基礎医学領域の知識を身につける
		⑪理学療法専門領域の知識と技術を身につける
		⑫習得した知識と技術を用いて、理学療法評価および治療を実践できる
	問題解決能力・科学的探究心】	⑬最新の情報を収集、理解できる能力を身につける
		⑭情報を整理して把握し、客観的な判断に基づき原因を考えることができる
		⑮論理的思考に基づき解決策を立案することができる
		⑯問題の解決に向け、積極的に行動することができる
		⑰科学的根拠の構築の必要性を理解し、探求心をもって理学療法の検証ができる

（◎＝学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○＝学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△＝学習成果を上げるために履修することが求められる科目）
ALはアクティブラーニング。ALが11回以上で◎、6～10回で○、1～5回で△、0回は空白。

分野		新科目名（27生カリ）	ナンバリング	科目概要(*1)	カリキュラム・マップ ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	AL (*2)
ション理論		ヘルスプロモーション論	RL3305	健康を保持増進するために，加齢に伴う運動機能の低下や生活習慣病などを予防し，対象者に応じた運動処方の作成や実施，生活習慣を含めた生活環境への働き掛けを学ぶ。健康増進を図るための政策や組織的取り組みなど包括的な対策の展開を理解できる。	○	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	○	△
		国際医療事情	RL2302	異国文化に触れながら，語学力を高め，国内外の医療事情について理解する。	◎	◎	◎		○	○										○		
基礎理学療法学		理学療法学概論	RL1108	リハビリテーション医療における理学療法（士）の役割を理解し，医療専門職としての理学療法士像を学びその資質を醸成できる。	◎	○			◎		◎	△	○	○	◎		△	△	△	△	○	
		運動学	RL1109	人体の運動機構を科学的に分析するための基礎編として，骨・関節や筋肉，靭帯，腱を中心とする運動器の構造と機能，物理学に基づく生体力学などを理解し，心身の運動の基本的な構成と臨床応用についての知識を学習し，病変による運動関連障害を分析，治療するための基礎を修得できる。	○								○	◎	◎	◎	○	◎	○	○	○	
		運動学演習	RL2112	人間の身体の仕組みと運動を理解し，力学・生理学・解剖学の知識を用いて運動，動作解析の方法を理解する。また，運動・動作に関する観察・測定・分析の手段を体験し，その結果をレポートにまとめる。	△	◎	◎	◎	◎	◎	○		◎	◎	◎	△	○	○	○	○	○	○
		臨床見学実習指導	RL1110	臨床実習における学外実習の前に，一定期間の事前指導を受講し，臨床見学実習の目的および目標到達のための学習ができる。	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	△	◎	△	◎	○	△	○	○	◎	◎	◎
		臨床見学実習	RL1111	実際の医療・介護施設における臨床場面を見学し，社会人・専門職としての態度を養い，対象の持つ障害の多様性を認識し，対象とのコミュニケーションを図る。さらに臨床実習指導者の指導監督の下に，理学療法業務を理解し，検査・測定を中心とした理学療法評価や治療場面を見学し，学内での講義，実習の意義・重要性を認識する。	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	△	◎	△	◎	○	△	○	○	◎	◎	◎
		基礎理学療法学	RL2113	理学療法を科学的に理解し、臨床において効果的な理学療法を実践する上で必要とな る理学療法の基本的事項について学ぶ。	○									◎	◎	△	○	○	△		◎	
		医療統計学	RL2114	医学・医療系の情報（論文）を理解するのに必要な統計学の基礎知識を身につけること。すなわち，様々な統計解析結果を適切に解釈できるようになるとともに，基本的な検定法を実践できることを目標とする。統計解析法における数学的な理解を目的としない。	○			○						◎	○		◎	○	○		◎	○
		人間発達学	RL2115	ライフステージにおける身体，運動機能，認知，情緒・社会的機能の発達を，小児期を主眼として理解できる。	○	○	○				○			◎	◎		○	◎	○	○	○	
		専門セミナーⅠ	RL2116	1年次の基礎セミナーから続く専門セミナーⅠおよびⅡでは、単に教養を身につけることを目的とせず、その過程において、医療人としての態度が身につけることができることを目標としている。特にチーム医療を実践する上で必要となる要素に重点をおき、それをグループ学習の中で養うことができるようにする。	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	○
		専門セミナーⅡ	RL2117	1年次の基礎セミナーから続く専門セミナーⅠおよびⅡでは、単に教養を身につけることを目的とせず、その過程において、医療人としての態度が身につけることができることを目標としている。特にチーム医療を実践する上で必要となる要素に重点をおき、それをグループ学習の中で養うことができるようにする。	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	○

リハビリテーション学部　カリキュラムマップ

ディプロマ・ポリシー	【豊かな人間性】	①幅広い教養を身につける
		②価値観の多様性を理解する
		③他者の感情を察し、理解することができる
	【国語力】	④思考力・対話力・表現力を養うための基本であり、文化の基盤である国語力を身につける
	理学療法を学ぶ学生としての態度】	⑤自身の行動の省察に基づいて、自身を成長させ続けることができる
		⑥他者と連携・協働することができ、強い責任感を持って自身の役割を担うことができる
		⑦理学療法士の社会的責任を理解して行動できる
		⑧協働意思決定の重要性を理解し、対象者本位の理学療法が提案できる
	【専門知識・技術】	⑨専門職として必要とされる観る力、聴く力、伝える力を身につける
		⑩基礎医学領域の知識を身につける
		⑪理学療法専門領域の知識と技術を身につける
		⑫習得した知識と技術を用いて、理学療法評価および治療を実践できる
	問題解決能力・科学的探究心】	⑬最新の情報を収集、理解できる能力を身につける
		⑭情報を整理して把握し、客観的な判断に基づき原因を考えることができる
		⑮論理的思考に基づき解決策を立案することができる
		⑯問題の解決に向け、積極的に行動することができる
		⑰科学的根拠の構築の必要性を理解し、探求心をもって理学療法の検証ができる

（◎＝学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○＝学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△＝学習成果を上げるために履修することが求められる科目）
ALはアクティブラーニング。ALが11回以上で◎、6～10回で○、1～5回で△、0回は空白。

分野		新科目名（27生カリ）	ナンバリング	科目概要(*1)	カリキュラム・マップ ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	AL (*2)
	理学療法のための評価学	理学療法評価学Ⅰ	RL2118	理学療法を行うに当たり，最も重要なのは評価である。理学療法評価は問診にはじまり，観察，検査・測定，統合・解釈へと続く一連の思考過程である。その過程の中で障害を引き起こす疾患の特性を理解し，障害を系統的に分類し如何に統合・解釈できるかである。統合・解釈ができたら，そこから出てくる問題点を把握し，治療計画を立案しなければならない。そこで，本講義では評価の流れを知り，基本的な検査・測定についてその意義が理解できるようにする。			△	○	△	○	○	○	◎	◎	◎	◎	○	○	△	△	△	◎
		理学療法評価学Ⅰ演習	RL2119	理学療法を行うに当たり，最も重要なのは評価である。理学療法評価は問診にはじまり，観察，検査・測定，統合・解釈へと続く一連の思考過程である。その過程の中で障害を引き起こす疾患の特性を理解し，障害を系統的に分類し，いかに統合・解釈できるかである。統合・解釈ができたら，そこから出てくる問題点を把握し，治療計画を立案しなければならない。そこで，本講義では評価の流れを知り，基本的な検査・測定について実施できるようにする。			△	○	△	○	○	○	◎	◎	◎	◎	○	○	△	△	△	◎
		理学療法評価学Ⅱ	RL2120	機能障害診断学を引き継ぐ形で，疾患（障害）に適する応用的な検査・測定を学び，診断的意義を理解する。行った評価（検査・測定）の目的について説明ができ，結果についても考察できる。			△	○	△	○	○	○	◎	◎	◎	◎	○	○	△	△	△	◎
		理学療法評価学Ⅱ演習	RL2121	機能障害診断学演習を引き継ぐ形で，疾患（障害）の診断的意義について理解しながら，適する検査・測定を学び，系統的に分類し統合・解釈する。そこから生じる問題点を把握し，治療計画に結びつける。この一連の思考過程を実践できるようにする。			△	○	△	○	○	○	◎	◎	◎	◎	○	○	△	△	△	◎
		バイオメカニクス	RL2122	力学・解剖学・運動学等の基礎知識を応用して，姿勢や動作を観察・測定・分析する手法を学び，身体の運動の仕組みを理解する。また一般的な疾患が呈する異常動作を，バイオメカニクス的な知識を用いて理解する。				○					◎	○	◎		◎	◎	◎	◎	◎	○
		臨床理学療法学A	RL3103	運動器障害に対する理学療法評価と理学療法の実践を学習する。臨床で実施される総合的な治療を理解し，その中の理学療法の実践について各障害に対する理論に基づいた検査と手技が説明できる。				△	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎
		臨床理学療法学B	RL3104	神経系（中枢）疾患に対する運動療法に必要な解剖生理学的背景を理解し，基本的な神経系の運動療法が理論的かつ実践的に展開でき，なおかつ，リスク管理に関する基礎知識を理解し説明できる。				△	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○
		臨床理学療法学C	RL3105	内部障害の病態を理解し，そのリハビリテーションの流れを説明できる。					○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	
		理学療法治療学総論	RL3106	安全かつ効果的な理学療法が提供できるように、疾患・障害に関係なく適用される基本的な技術について、知識を修得する。				△	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	
		臨床理学療法学A演習	RL3107	運動器障害に対する理学療法評価と理学療法の実践を学習する。臨床で実施される総合的な治療を理解し，その中の理学療法の実践について各障害に対する理論に基づいた検査と手技が実施できる。				△	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎
		臨床理学療法学B演習	RL3108	神経系（中枢・末梢）疾患に対する運動療法に必要な解剖生理学的背景を理解し，基本的な神経系の運動療法が理論的かつ実践的に展開でき，なおかつ，リスク管理に関する基礎知識を理解できる。				△	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎
		臨床理学療法学C演習	RL3109	内部障害に対する適切な理学療法評価と理学療法を実践できる。					○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	△
		発達障害学	RL3110	異常運動発達を理解するのに必要な正常運動発達の基礎的知識を身につけること。さらに異常運動発達に対する評価方法および介入方法を理解・実践できる。	○	◎	◎				◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○	△

リハビリテーション学部　カリキュラムマップ

ディプロマ・ポリシー	【豊かな人間性】	①幅広い教養を身につける
		②価値観の多様性を理解する
		③他者の感情を察し、理解することができる
	【国語力】	④思考力・対話力・表現力を養うための基本であり、文化の基盤である国語力を身につける
	理学療法を学ぶ学生としての態度】	⑤自身の行動の省察に基づいて、自身を成長させ続けることができる
		⑥他者と連携・協働することができ、強い責任感を持って自身の役割を担うことができる
		⑦理学療法士の社会的責任を理解して行動できる
		⑧協働意思決定の重要性を理解し、対象者本位の理学療法が提案できる
	【専門知識・技術】	⑨専門職として必要とされる観る力、聴く力、伝える力を身につける
		⑩基礎医学領域の知識を身につける
		⑪理学療法専門領域の知識と技術を身につける
		⑫習得した知識と技術を用いて、理学療法評価および治療を実践できる
	問題解決能力・科学的探究心】	⑬最新の情報を収集、理解できる能力を身につける
		⑭情報を整理して把握し、客観的な判断に基づき原因を考えることができる
		⑮論理的思考に基づき解決策を立案することができる
		⑯問題の解決に向け、積極的に行動することができる
		⑰科学的根拠の構築の必要性を理解し、探求心をもって理学療法の検証ができる

（◎＝学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○＝学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△＝学習成果を上げるために履修することが求められる科目）
ALはアクティブラーニング。ALが11回以上で◎、6～10回で○、1～5回で△、0回は空白。

分野		新科目名（27生カリ）	ナンバリング	科目概要(*1)	カリキュラム・マップ																	AL(*2)
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	
専門実践科目	疾病・障害に対する理学療法学	物理療法学	RL3111	理学療法における物理療法の位置づけ，分類，原理を理解する。各種物理的エネルギーによる生体の反応を理解し，物理療法が対象となる症状や疾患への展開とリスクを理解する。			○		○		◎	○	○	○	◎		◎					
		物理療法学演習	RL3112	物理療法学の講義で学んだ知識を基に，各物理療法機器の特徴・適応疾患・禁忌事項について理解を促し，臨床で応用する手技・能力を修得する。また，物理療法の適用によって起こる様々な生理反応を測定・記録し，レポートにまとめる。		○	○	◎	○	◎	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎
		日常生活活動学	RL2123	日常生活活動の概念，意義，目的，評価，指導の一般論について理解を深め，日常生活活動評価について説明できる。		△	△		○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	○	○	△
		義肢装具学	RL3113	義肢装具がリハビリテーションにおいて果たす意義や役割を理解する。義肢装具のチェックポイントを学び，臨床において必要な適合能力を獲得する。	○	◎	○				◎	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○	
		義肢装具学演習	RL3114	義肢装具の製作工程の把握や製作上の注意点を理解し，実際の臨床でより役立つ知識を習得する。臨床現場での最適な選択知識，適合時の正確なチェックアウトの知識と技術を習得する。	○	◎	○				◎	○	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○	◎
		スポーツ理学療法学特論	RL4301	スポーツ外傷などの原因により、スポーツ活動に制約を受けている対象者への理学療法の内容を知り、また基本的手法について学習する。スポーツ外傷の病態と、各外傷後で要する評価や理学療法について学ぶ。また、障がい者スポーツへの理学療法士の関わりについて学ぶ。	○	◎	○				◎	○		◎	◎	○	○	○	○	○	○	△
		臨床理学療法学特論	RL4302	臨床における理学療法導入へのプロセスについては、医療情勢、疾病構造の面から検討した知識、評価、技術が重要なものとなる。基本的な理論や理学療法士の臨床能力について学ぶ。							○	○	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	○
		ペインリハビリテーション	RL4303	痛みの多面性と発生メカニズムを理解し、臨床現場での痛みのリハビリテーション評価を学び、痛みから波及するさまざまな問題について、各種アプローチ方法を教授する。	○	○	◎		△		○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	△
		リサーチ・スキルズ	RL4304	リサーチリテラシー(研究を遂行するために必要な基礎的能力)について学習する。専門分野の枠組みを超えて、「聞く力」「課題発見力」「情報収集力」「推報整理力」「読む力」「書く力」「データ分析力」「プレゼンテーション力」の能力を身につける。				○									◎	◎	◎	◎	◎	○
		クリニカルリーズニング	RL4305	EBPT につながる基本として、理学療法士が行う検査測定結果から目標設定、理学療法プログラムの立案につながる臨床推論の基本的な流れが展開できる素地を養う。		○	○				○	◎	◎				◎	◎	◎	◎	◎	
	地域における理学療法学	地域理学療法学	RL3115	地域リハビリテーションの理念・概念を理解し，各種制度・法律下における地域理学療法の必要性を理解する。また，保健・予防とリハビリテーションとの関係を整理し，保健・予防分野における理学療法士のかかわりを理解する。		◎				○	◎	○	○		◎	○	○	◎	◎	○	○	
		地域理学療法学実習	RL4101	通所（訪問）リハビリテーションの現場を見学し、地域包括ケアシステムに関与する関連専門職の役割を理解する。とりわけ、その中における理学療法の位置づけや理学療法業務を理解する。	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		リハビリテーション活動演習	RL3116	地域リハビリテーションの概要を理解し、そこで必要とされる理学療法士の役割を学ぶ。これにより、症例ならびに生活場面に応じたリハビリテーションを提案できる。また、保健・予防とリハビリテーションとの関係を理解し、健康増進活動を実践できる。			◎	○	○	◎	◎	○	◎	△	○	△	△	◎	◎	◎	◎	◎

リハビリテーション学部　カリキュラムマップ

ディプロマ・ポリシー	【豊かな人間性】	①幅広い教養を身につける
		②価値観の多様性を理解する
		③他者の感情を察し、理解することができる
	【国語力】	④思考力・対話力・表現力を養うための基本であり、文化の基盤である国語力を身につける
	理学療法を学ぶ学生としての態度】	⑤自身の行動の省察に基づいて、自身を成長させ続けることができる
		⑥他者と連携・協働することができ、強い責任感を持って自身の役割を担うことができる
		⑦理学療法士の社会的責任を理解して行動できる
		⑧協働意思決定の重要性を理解し、対象者本位の理学療法が提案できる
	【専門知識・技術】	⑨専門職として必要とされる観る力、聴く力、伝える力を身につける
		⑩基礎医学領域の知識を身につける
		⑪理学療法専門領域の知識と技術を身につける
		⑫習得した知識と技術を用いて、理学療法評価および治療を実践できる
	問題解決能力・科学的探究心】	⑬最新の情報を収集、理解できる能力を身につける
		⑭情報を整理して把握し、客観的な判断に基づき原因を考えることができる
		⑮論理的思考に基づき解決策を立案することができる
		⑯問題の解決に向け、積極的に行動することができる
		⑰科学的根拠の構築の必要性を理解し、探求心をもって理学療法の検証ができる

（◎＝学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○＝学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△＝学習成果を上げるために履修することが求められる科目）
ALはアクティブラーニング。ALが11回以上で◎、6～10回で○、1～5回で△、0回は空白。

分野		新科目名（27生カリ）	ナンバリング	科目概要(*1)	カリキュラム・マップ ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	AL (*2)
臨床実習		検査測定実習	RL2124	学外実習指導者の指導監督の下において、対象者を尊重したコミュニケーションを図り、良好な関係を構築する。そして、学内での講義、実習で学んだ様々な検査測定が対象を理解するうえで何が、どのように必要かを理解し、遂行、記録する。さらに、各検査測定結果の関連性について理解する。また、実際の医療・介護現場の多職種構成チームにおける理学療法の位置づけと業務を理解する。	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		臨床実習指導	RL3117	「臨床評価実習」「臨床総合実習Ⅰ・Ⅱ」において必要とされる知識・技術を整理し、実習にふさわしい態度について学ぶ。今までの講義、演習及び実習で学んだ様々な検査・測定について、対象を理解するために、何が、どのように必要かを理解し、評価する目的を再学習し、実践できるようにする。グループワーク等の演習を含めた形式で行う。	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
		臨床評価実習	RL3118	学外実習指導者の指導監督の下に、理学療法士の業務を理解し、学内での講義、実習で学んだ様々な検査測定が対象を理解するうえで何が、どのように必要かを理解し、実践する。さらに、実施する理学療法の適応について考察し、診療録等の記載方法について実践する。	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		臨床総合実習Ⅰ	RL4102	総合的に理学療法を体験し、リハビリテーションチームの一員としての役割を実践的に学ぶ。このため情報収集、対象者とのコミュニケーションに努める。そして、ある程度の助言・指導のもとに、基本的理学療法を遂行することができるようにする。	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		臨床総合実習Ⅱ	RL4103	総合的に理学療法を体験し、リハビリテーションチームの一員としての役割を実践的に学ぶ。このため情報収集、対象者とのコミュニケーションに努める。そして、ある程度の助言・指導のもとに、基本的理学療法を遂行することができるようにする。	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	卒業研究	卒業研究	RL4104	自ら見出した疑問を自ら解決する方法を理解し，実践することができる。専門領域あるいは保健医療福祉に関する領域から研究テーマを設定し，初歩的な研究を実践することができる。	◎	◎	◎	○	○	◎	○	○					◎	◎	◎	◎	◎	◎
実践連携科目	医療専門職のための実践連携	理学療法学研究法演習Ⅰ	RL3119	理学療法学を研究する上での基本について教授する。学生の興味・関心に基づいた研究課題の設定により、教員の指導もと、研究実践の基礎を習得して、卒業研究に繋げることができる。	◎	◎	◎	○	○	◎	○	○					◎	◎	◎	◎	◎	◎
		理学療法学研究法演習Ⅱ	RL3120	理学療法学を研究する上での基本について教授する。学生の興味・関心に基づいた研究課題の設定により、教員の指導もと、研究実践の基礎を習得して、卒業研究に繋げることができる。	◎	◎	◎	○	○	◎	○	○					◎	◎	◎	◎	◎	◎
		理学療法管理学	RL4105	理学療法の職場管理において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について学ぶ。	○						○	◎	○	○	◎		○	○	○			
		理学療法学応用セミナーA	RL4106	4年時までに学修して得た知識および技術の集大成として、理学療法の専門基礎分野に関する最新のトピックスを学修し、自分の将来像を確立する。	○				○	○	○	◎	◎	○	◎		○	○	○	○	○	○
		理学療法学応用セミナーB	RL4107	4年時までに学修して得た知識および技術の集大成として、理学療法の専門分野に関する最新のトピックスを学修し、自分の将来像を確立する。	○				○	○	○	◎	◎	○	◎		○	○	○	○	○	○